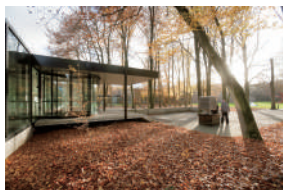


2人は、アントン・クレラーとヘレーネ・クレラー＝ミュラー夫妻だホ。2人のコレクションをもとに1938年にクレラー＝ミュラー美術館ができたホ。ヘレーネは、1908年からの約20年間に、夫アントンの支えのもと、ファン・ゴッホの油彩画約90点と180点を超える素描・版画を集めたホ。ヘレーネは作品のすばらしさを



クレラー＝ミュラー美術館 外観
© Kröller-Müller Museum/ photo: Janes Linders

多くの人々と分かちあうためにコレクションを公開したんだ。そのことがファン・ゴッホが評価されるきっかけとなったホ。



左がヘレーネ、右がアントン
© Photo Archive Kröller-Müller Museum



ファン・ゴッホは、絵の具の色を混ぜずにそのまま使うのが好きだったんだ。絵の具を筆にとらずにチューブからキャンバスに直接塗ることもあった



《夜のカフェテラス(フォルム広場)》(部分)
1888年9月16日頃、油彩/キャンバス、80.7×65.3cm

ホ。絵の具が盛り上がって
いる絵も見てみてホ。



色の環(色相環)って知ってる? 向き合っている色(補色)をとなり合わせにすると、お互いの色が目立って見えるよ。ファン・

ゴッホの絵には、この補色の組み合わせがたくさん使われているよ! 見つけてみよう!



(色相環)

6月末までは、小・中・高校生は無料!

※ 中・高校生の方はご入場の際に証明できるものをご提示ください。
※ 公式オンラインチケットサイト(イーティックス)にて日時指定予約(無料)をしていただくことを推奨します。



観覧料(税込)	平日(月～金)	土・日・祝日
一般	2,800円	3,000円
大学・専門学校・高校生	1,600円	1,800円
中学生・小学生	1,000円	1,200円

参加費無料! もっとファン・ゴッホについて知りたい方におすすめ!

子ども向けオンラインセミナーを「キッズウィークエンド」で開催予定! ファン・ゴッホの波乱万丈な人生や、魅力あふれる「大ゴッホ展」の作品について、元よしもと芸人のとに～さんが楽しく&わかりやすく解説します。

6/7(日)
19:00～20:00

講師
アートテラー
とに～さん
(元よしもと芸人)



6/7(日) 19:00～20:00 参加費無料

GRAND VAN GOGH EXHIBITION



ジュニアガイド

大ゴッホ展

夜のカフェテラス

2026 5.29(金) - 8.12(水) | 会期中 無休 | 上野の森美術館

開館時間 | [日～木曜日] 9:00～17:30 [金・土・祝日] 9:00～19:00 ※入館は閉館の30分前まで
主 催 | 産経新聞社、TBS、TBSグローディア、博報堂、上野の森美術館 特別協力 | クレラー＝ミュラー美術館
後 援 | オランダ王国大使館 協 賛 | 大和証券グループ、大和ハウス工業、JR東日本、eBay Japan 合同会社
協 力 | KLMオランダ航空 企 画 | ハタインターナショナル

本展は、政府による美術品補償制度の適用を受けています。東京展公式サイト | <https://grand-van-gogh-tokyo.com/>
This exhibition is covered by the Japanese Act on the Indemnification of Damage to Works of Art in Exhibitions (Act No.17 of 2011) お 問 合 せ | 050-5541-8600(ハローダイヤル/9:00～20:00)

ファンセント・ファン・ゴッホ《夜のカフェテラス(フォルム広場)》(部分) 1888年9月16日頃 油彩/キャンバス、80.7×65.3cm クレラー＝ミュラー美術館 © Collection Kröller-Müller Museum, Otterlo, the Netherlands, Photography by Rik Klein Gotink

こんにちは!
このガイドブックの
ナビゲーターだホ!

ナビゲーター ホッゴさん

ホッゴさんプロフィール

いつでもポジティブ!ハイテンション!な画家の「ホッゴさん」。楽しいことや面白いことが大好き。ただし、ショックなことがあると顔がぐるっと回転。いつもとは真逆の繊細な性格になってしまいます。それはまるであの有名画家のよう…。



《じゃがいもを植える農民》
1884年8-9月、油彩/カンヴァス、66.4×149.6cm



《白い帽子をかぶった女の頭部》
1884年11月-1885年5月、油彩/カンヴァス、44×36cm



《じゃがいもを食べる人々》
1885年4月、リトグラフ/網目紙、28.4×34.1cm

「ジャガイモ食おうぜ!」
「そんなことより、どの作品のモチーフかな?」



《麦わら帽子のある静物》(部分)
1881年11月後半-12月半ば、油彩/カンヴァスに貼った紙、36.5×53.6cm

オランダで描いた作品



「明るい絵が多い? 暗い絵が多い?」



START!!
ファン・ゴッホ 色彩の道のり



パリ(フランス)で描いた作品



GOAL!!

《夜のカフェテラス(フォルム広場)》
1888年9月16日頃、油彩/カンヴァス、80.7×65.3cm

「夜には何色が使われているかな?」
「作品からどんな音が聞こえる?」
「カフェテラスは何色が使われているかな?」

「ファン・ゴッホの手紙」
今、絶対に描きたいのは星空だ。夜は昼間よりもずっと色彩豊かでこの上なく鮮やかな紫、青、緑の色調を見せてくれる。

本展の主演はフィンセント・ファン・ゴッホ(1853-90年)。オランダ生まれの画家だホ。27歳頃に画家になることを決めてから、37歳で亡くなるまでのわずか10年間に約2,000枚の絵を描き続けたホ。でも、生きている間に作品はほとんど売れなかった。貧しく、決して楽な人生ではなかったホ。オランダからパリ、アルルへと移り住む中で、多くの画家の影響を受け、独自の描き方を生み出していったんだホ。そんな彼の作品をいっぱい見てホ。

作品は全て フレラー・ミュラー美術館
© Collection Kröller-Müller Museum, Otterlo, the Netherlands. Photography by Rik Klein Gotink

アルル(南フランス)で描いた作品

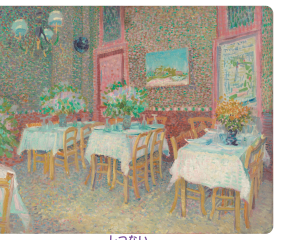


《夕暮時の刈り込まれた柳》
1888年3月、油彩/厚紙に貼ったカンヴァス、31.6×34.3cm

「明るい絵が多い? 暗い絵が多い?」
GO! GO!



《モンマルトルの丘》(部分)
1886年4-5月、油彩/カンヴァス、38.1×61.1cm



《レストランの室内》
1887年夏、油彩/カンヴァス、45.5×56cm



《青い花瓶の花》
1887年6月頃、油彩/カンヴァス、61.5×38.5cm



《自画像》
1887年4-6月、油彩/厚紙、32.4×24cm

「描かれているよ!」
「たくさんさんの点や線で」



《草地》
1887年4-6月、油彩/カンヴァス、30.8×39.7cm

「ファン・ゴッホの手紙1-11」(フィンセント・ファン・ゴッホ書、ファン・ゴッホ美術館編、関野司朗訳、新潮社、2020年)より一部抜粋